



# あすなる

有田市立保田小学校 校長室便り  
令和4年7月14日発行  
第7号(夏休み号)  
(文責 校長 出口雄三朗)



## 「声かけ」は「<sup>こえ</sup>肥かけ」



先日、ある方から「『声かけ』は『<sup>こえ</sup>肥かけ』という話を教えていただきました。

その意味するところは、子どもを正しく成長に導くには、作物に肥(肥料)を施し、成長を促すのと同じように、適切な「声かけ」が必要だというものでした。  
なるほど！！と思いました。

この話を聞いて、いつも子どもたちの目線や表情をよく観察して、心の内を感じるように努めることは、とても大切なことだとあらためて感じました。

子どもは、何を頑張ろうとしているんだろうか、頑張ったことの中で何を見て欲しいと思っているんだろうか、体の調子は悪くないか、どういう心の状態なんだろうか、困った事やイライラするような事はないか等々…。

そして、子どもたちの心の内の声が聞こえたら、その内の声に見合った音量、声質、言葉で「声かけ」をすることの大切さを感じました。

「声かけ」については、私はいつも気をつけていることが二つあります。

その一つは、「タイミングと分量」です。タイミングが悪いとせっかくの「声かけ」が、「余計な声かけ」になってしまうからです。畑の<sup>こえ</sup>肥かけもタイミングや量が適切でないと<sup>こえ</sup>肥の効果を得られないどころか、作物が枯れてしまうこともあるそうです。

また、分量にも気をつけています。あまり大げさな表現や言葉で声かけすると、なんだかわざとらしくなったり、またあっさりとした言葉すぎると、「ちゃんと見てくれてない…」という印象を与えてしまって、せっかくの声かけが効果のないものになってしまいます。

もう一つ気をつけているのは、「正しく、やさしい言葉」で声かけするという事です。「正しく」とは相手の気持ちを和ませたり、勇気や自信を与えるような内容をさします。

また「やさしい」とは声かけするときの口調を言います。

私は声かけするときには、この二つのことを意識しておこなっています。

夏休みはお家での生活が中心となります。是非「声(肥)かけ」をしてあげてください。

そうすると、きっと子どもは、「声」を「<sup>こえ</sup>肥(肥料)」にして、身も心もぐんぐんと成長すると思います。休み明けには、少したくましくなった子ども達と再会できることを楽しみにしております。

